

予防・早期発見へ

# 認知症医療施設が拡充

横浜市会議員

仁田まさとし

国の推計では2025年には高齢者の5人に1人が認知症になるとされており、予防や早期発見が重要です。

横浜市は認知症の予防・治療の核となる

「認知症疾患医療センター」を鶴見区、金沢区、戸塚区、港北区の4カ所に設けており、12月には青葉区にも開設され

ます。医療・介護機関と連携を図りながら、認知症であるかどうかの「鑑別診断」や専門医療相談などの実施、地域保健医療・介護関係者への研修も行います。

これまでの4カ所では鑑別診断の検査枠が少ないため、初診予約から診断結果が出るまでに1〜2カ月を要してしまし

た。本来は診断は2週間で終わるべきもので、時間を要すれば治療の遅れを招きます。

コロナ禍で外出できない、人に会えないなど、認知症の予防にとつて難しい期間が続いていま

市は南、中、磯子区にまたがる米軍根岸住宅地区跡地に浦舟町の市大セクター病院、金沢区の市大附属病院を再整備する構想案をまとめました。

根岸住宅地区は1947年に接収された約43ヘクタールの米軍施設。2018年の日米合意で返還が現実的になり、市は返還後の跡地利用の計画策定を進めています。

り、南区域もカバーできるように計画が進んでいくように、引き続き取ります。全区への設置は必ず組みを進めます。

## 根岸住宅跡地に市大病院案

根岸住宅地区は1947年に接収された約43ヘクタールの米軍施設。2018年の日米合意で返還が現実的になり、市は返還後の跡地利用の計画策定を進めています。

から約1km離れた高台にあります。病院が整備された場合、駅から移動しやすい公共交通の導入が不可欠で、アクセスは最大の課題です。

公明党市会議員団は2018年12月の市会本会議で「身近な地域で鑑別診断を受診でき、待ち日も短縮できるよう、認知症疾患医療センターを全区に整備すべき」と要望しました。その結果、

2病院は建設から30年取り組んでいきます。



仁田まさとし プロフィール

- 市民・文化観光・消防委員会
- 健康づくり・スポーツ推進特別委員会
- ◇施政方針は「動く、創る、変える。」
- ホームページ <http://www.nitta-m.jp/>
- ライン 情報発信中

9カ所への増設が決ま

住宅地等▽森林公園――の3地域に分け、文教ゾーンは2病院と市大医学部を再整備する最有力候補地となっています。

私は今後も誰もが安心できる医療体制の整備に